

「垂水高校の『在り方(案)』

及び

「垂水高校振興支援計画書」の策定に係る

経過報告

内容

1, 取り組みの背景.....	2
2, 垂水高校存続・振興事業の目的	2
3, 改善の方向性について	2
4, 振興・支援策作成過程で留意すること.....	2
5, 望まれる高校の姿とはなにか? 「魅力ある垂水高校」の定義づけ	2
6, 「振興支援策」及び『在り方(案)』策定の事務作業の流れ	3
7, 垂水高校の現状 と これまでの存続対策の検証.....	3
8, 改善策作成の背景にある考え方のまとめ作業	7
9, 改善策作成の指針のまとめ作業 課題解決の指針・プラン作成	7
10, 「魅力ある垂水高校づくりの振興・支援策」の策定について	14
11, 「垂水高校の在り方(案)」の策定について.....	19
12, 魅力ある垂水高校づくり調査研究報告書について	28

平成 23 年 10 月

垂水市「魅力ある垂水高校づくり検討会議」

事務局；垂水市企画課計画調整係

1, 取り組みの背景

H22.10 小規模校の廃止基準を従来より拡大する「公立高校の振興方針（骨子）案」が提示。
（垂水市の対応）高校存続の危機 見直しの要望を行う。（県内で最初）

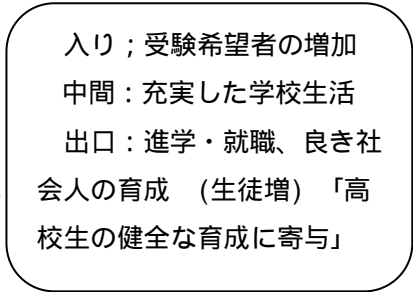
H22.2 伊藤知事「地域間格差是正の観点から、（県教委に）見直しをお願いしている。」
県教育長は「今後は骨子案の廃止基準にこだわらず、学校単位で検討したい」と、地域の実情や歴史的な背景を考慮し、個別に対応する方針 大隅地域の公立高校の充実・振興策を検討する委員会を設置。

（垂水市の対応）市全体の問題として危機感を持ち、現状打開と早急な準備・活動のために「振興・支援」に向けた体制づくりと「振興支援策」の確立。

2, 垂水高校存続・振興事業の目的

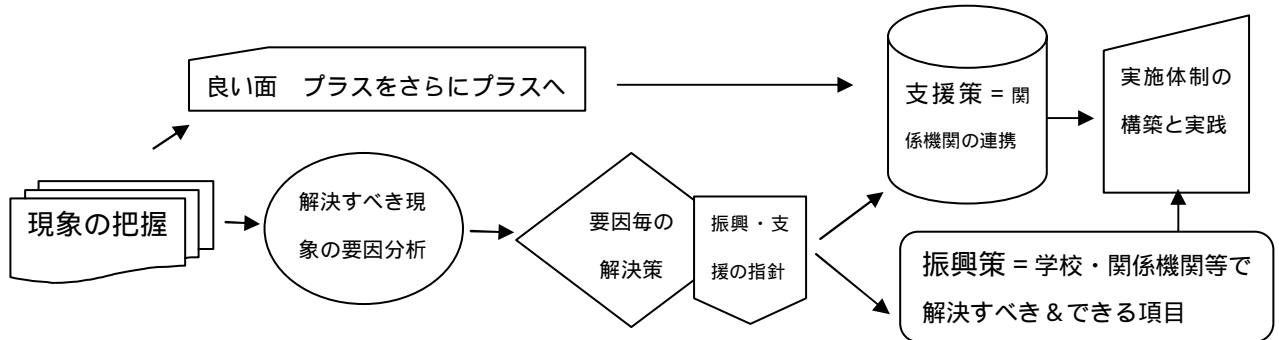
- 「垂水市に垂水高校がないといけない地域事情」の確立
- ・本市になくってはならない教育施設としての位置づけ
- ・本市全体の共通認識

- 生徒増(魅力ある高校)&地域づくりの一環としての支援策
- ・市及び関係団体等による取り組み
- ・垂水高校の経営方針・教育方針に基づく振興



3, 改善の方向性について

- 「垂水高校へ進学しようとする動機・選択」を増加させる
- 「高校・市・民間・関係団体それぞれの振興・支援策」を具体化する



4, 振興・支援策作成過程で留意すること

- 現中学生の進学選択の自由を損なわないように配慮すること。
- 高校、市、市民、県教委、関係団体等それぞれの立場・責任・役割・やるべきことに留意する。
- 「魅力ある垂水高校づくり」は主体はあくまでも高校、生徒、保護者であること。

5, 望まれる高校の姿とはなにか？ 「魅力ある垂水高校」の定義づけ

生徒増につながらなかった主な要因 = 垂水高校が入学したい「魅力ある垂水高校」でなかった。

では、どのような学校が「魅力ある垂水高校」なのか？

受験生にとって = 「受験したい、進学したい」と思える垂水高校

受験生保護者にとって = 「受験させたい、進学させたい」と思える垂水学校

高校在学学生にとって = 「夢・希望がかなう学校、充実した学校生活を送れる学校」

在学生保護者にとって = 「在学・卒業時に子供を通わせて良かったと思える高校」

垂水市にとって = 「垂水高校の生徒数が増え、垂水高校(生徒)の元気のよさがまちの活性化につながる」

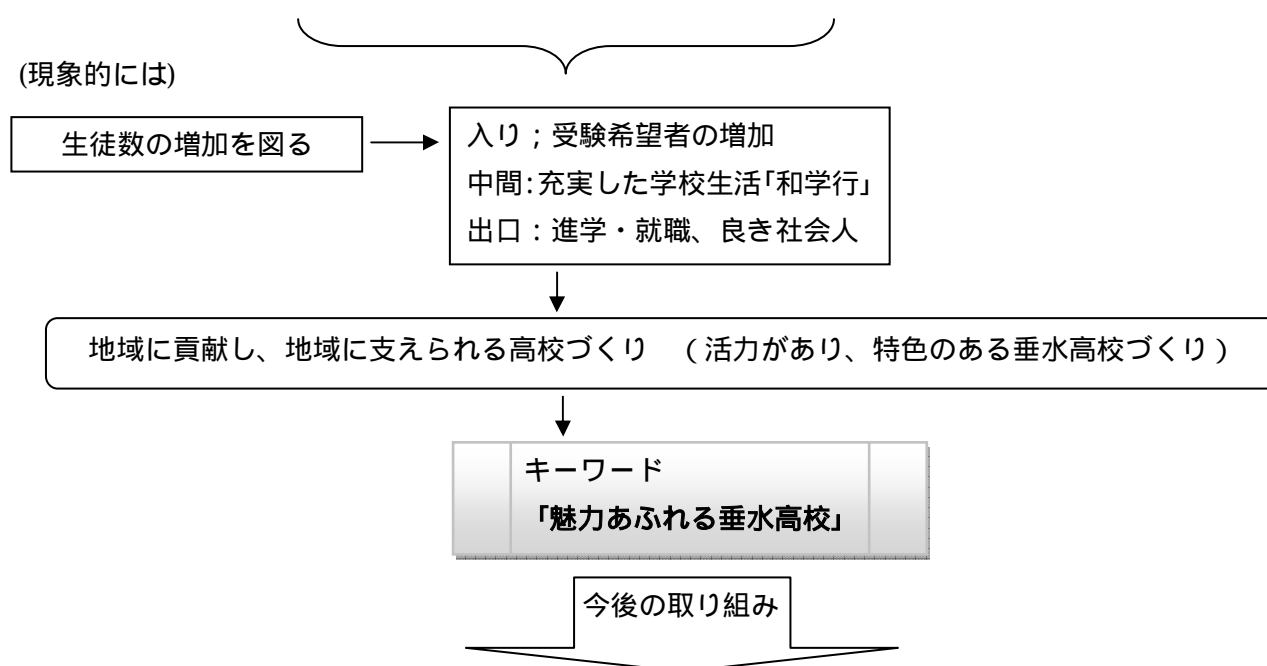
市教委にとって = 「垂水高校の生徒数が増え、垂水高校(生徒)の元気よさが市の教育振興につながっている」

民間団体・市民にとって = 「地域の人々が信頼し、期待すると同時に、協力を惜しまない」

実現

垂水高校 = 上記の思いがかなう「魅力ある垂水高校」であり、生徒数の増加につながっている。

(現象的には)



6、「振興支援策」及び『在り方(案)』策定の事務作業の流れ

- | | |
|------------------------|---------------|
| A 現状分析・情報収集 | : 存続対策部門 |
| B 課題解決の指針・プラン作成 | : 存続対策部門 |
| C 具体的振興策の提示 | : 存続対策・振興対策部門 |
| D 関係各主体の振興策の実施、進捗確認 | : 振興対策部門 |
| E 広報等による垂水市全体での協力・取り組み | : 振興対策部門 |

「存続対策部門」= 「魅力ある垂水高校づくり検討会議」(垂水高校存続に関する全ての調整を行う)

「振興対策部門」= 主体は「垂水高校振興対策協議会(平成9年5月設立)」(存続対策部門で示された方針をもとに垂水高校の振興対策施策の企画、調整、実施等を行う)

(メンバー)行政・市議会・県議会議員・市P連会長・垂水高校PTA会長・市振興連会長外17名

7、垂水高校の現状とこれまでの存続対策の検証

視点A；なぜ「垂水高校を存続」させないといけないのか？ 何のためにするのか = 目標・指針へ

視点B； 今の状態はどうか？（それがなぜ生徒数減につながったのか？）

・多様な志望動機と「少子高齢化」との関係 ・今までの取り組みの検証

- 1； 現状分析：今の状態はどうか？ なぜ、このままだと「存続」できないのか？

H23.4 入学者 全市内中学進学者 26%、普通科 23 人（定員 40）、生活デザイン科 24 名（定員 40 名）
（市内生徒の占める割合）普通科 23 名中 20 人（87%）、生活デザイン科 24 名中 16 人（67%）、全体 47 名中 36 名
（77%）

【検証結果】 新統廃合基準数値の 3 項目のうち 2 項目該当。特に在籍者総数、市内からの進学率が低い。

- 2； なぜ垂水高校の存続を望むのか？（存続しないとなぜ困るのか？）

アンケートや会合等での意見聴取 研究報告書『垂水高校の存在意義と地域振興について』（全 11p）作成
[意見例]（生徒）少人数のきめ細やかな指導。素晴らしい学校。親への経済的負担への配慮等。
（保護者）地元の垂水市で学びさせたい（安心安全）。生活・経済問題への影響。選択肢・人生設計の変更。

（市民）市の活力・イメージの低下。郷土への愛着をもち、地域産業や活力ある地域づくりに貢献する若者の人材不足懸念。保護者・生徒の人口流出。まち全体が若さを失っていく状態への懸念。

【検証結果】「垂水高校」は長年にわたって伝統と校風を築いてきており”地域に貢献する人材の育成にも資する重要な存在”であり、地域の活力に大いに貢献してきた。これまでの垂水高校が地域に果たしてきた役割を十分に踏まえ、地域の生徒・保護者・住民に大きな不安を与えることなく「垂水高校」の存続と振興を図る必要があり、それが“地域の絆”と“地域力の礎”となる。

- 3； 何を改善すべきなのか？（生徒増につながる要因はなにか）

【検証した事項】

(1) 中学校卒業生の進路状況・選択理由等分析

分析結果 公立・私立進学割合は県平均と同じ。 家庭学科系進学率は県の平均の 3 倍。

普通学科進学割合は県平均より少し低い。 地域特性として農・工業系が若干多い。 普通科進学者のうち鹿児島市への進学者が多く、ほとんどが進学校。 少子化による全体的なパイの視点。

【検証結果】今後の少子化の状況を直視し 5or10 年間で俯瞰し、急激な生徒増は望めない状況下での対策としては、

a 普通科 ・農、工業計高校進学者への普通科高校から専門大学・専門学校進学選択への施策。

・市外進学校希望生徒・保護者の要望に対応できる高校となるための施策。

b 生活デザイン科 ・垂水市からの進学者増を図りながらも、全県学区である点を生かし県下から生徒が受験希望するようになるための施策（資格等受験補助、交通費補助、下宿対策等）

(2) 垂水高校の進路状況分析

国公立大合格 3 名、就職決定率 100%、全体の 5~6 割進学・5~4 割就職

【**検証結果**】垂水高校の進路状況を正しく伝えるため市民・中学生の情報提供が必要。

(3)行政・民間の支援状況分析

市からの補助金 10 万円を「垂水高校振興対策協議会」を通して補助。他の支援等はない。民間のイベント・各種大会等において垂水高校の出番や活躍の場がない。

【**検証結果**】(結果)生徒減が垂水高校と地域の交流が少ないことも一因ととらえ、「垂水高校」においてもなお一層地域と連携した活動を実施し「地域に必要とされる高校」となり、行政・民間も最大限にバックアップする施策が望まれる。

(4)垂水高校の魅力ある・特色あるものの状況

現況の生徒・受験生減から判断し、少子化・現生徒数の状況により、「少人数の良さ」はあるものの、垂水高校が生徒増につながるそれ以外の「魅力ある・特色ある高校」を作り出せていない。

【**検証結果**】今後の「地域への貢献、地域からの支援」や「振興支援策」の実施過程で生徒増につながるものを生み出す必要がある。

(5)垂水高校及び垂水中央中学校の生徒・保護者の意識状況調査

【**調査の目的**】(目的) 垂水高校のイメージ及び現状等の把握と原因を探りながら、「魅力ある垂水高校」づくりの一步となる方策を生み出し、「それぞれが主体的に何をしていったらよいか」のデータ収集および分析のため

【**設問及び分析事項**】

・**垂水高校の廃止・統合問題に対する意識調査結果**

全体で「反対・存続希望」が68%、「(統廃合も)仕方ない」が27%。ただし中学校保護者の「仕方ない」の回答が40%を占める。 【**検証結果**】(結果)中学生保護者の意識改善が急務。

・**高校進学に対する意識調査**

中学生の進学を決める要素は1位「学校のイメージ」。進学を検討している高校別でのクロス集計の結果からは、垂水高校を選択した回答者は概ね「通学に便利」が高く、垂水高校以外の公立を選択した回答者は普通系で「進学に有利」、専門系で「就職に有利」、私立高校を選択した回答者は「学校のイメージ」が高い結果。

【**検証結果**】(結果)垂水高校の受験者増は「学校のイメージ」「進学に有利」「就職に有利」の改善が望まれる。

・**高校生活等に関する意識調査**

a 学校生活について 約34%「楽しい」、普通約58%、「楽しくない」約8%

【**検証結果**】楽しい学校生活を送れるような取組みが必要。

b 進路について 「目標がある」約60%、「未定」約40%

【**検証結果**】それぞれの状況に見合った丁寧なキャリア教育が必要。

c 学習環境 ほとんどの生徒が「よい」「普通」と回答。ただし施設・設備の改善要望あり。

d 部活動等の活動 「充実している」61% 【**検証結果**】約40%「充実していない」層の充実度を

高める。

e 課外活動(社会貢献活動) 「充実している」58% 【**検証結果**】約 40% 「充実していない」層の充実度を高める。

f 垂水高校の良いところ、改善したいところ

良いところ / 118 人中 102 人が記入

- ・少人数(小規模校) 先生と親しみやすい、目が行き届くみんなが活躍できる
- ・コミュニケーション

生徒関係 男女仲が良い、上下関係が厳しくない

先生 指導が丁寧、分かりやすい、相談しやすい、熱心である

- ・学校環境面 通学が便利、静か、きれい、明るい、校訓がよい
- ・進路面 就職率が高い、様々な可能性がある

改善したいところ / 118 人中 65 人が記入

- ・学校施設 エアコン、売店、校舎の美化、冷水機、トイレ
- ・学校イベントの充実 行事を増やす、文化祭等の土日開催
- ・通学方法 バイク免許取得、バス通学 ・あいさつの仕方や礼儀

【**検証結果**】「少人数だから」というキーワードが特に重要で 38 人の生徒が上げており、「小規模校」のメリットがうまく生かされ、それを多くの生徒が認識しているものと思われる。

一方、改善したいところは、多くは「学校施設」特に「エアコンの設置」に関するもの。

また、「学校イベント」については、「本校でしか学べないような宿泊学習や特色ある行事の開催」や「地域とのつながりを深めるために、文化祭や体育祭の休日開催」や「バイク免許取得」あり。

魅力ある垂水高校への取り組み / 当事者(高校生・保護者)として

垂水高校生 / 101 人中 74 人が記入

- ・ボランティア(17 人) 積極的参加
- ・学校生活向上(15 人) 高校生として自信をもって生活する、積極的に授業等に取り組む
- ・学校行事の活性化(5 人) 行事等を盛り上げる
- ・その他 あいさつ(11 人)、PR、学力向上 など

=すべて垂水高校のイメージアップに関することである

垂水高校保護者 / 85 人中 34 人が記入

- ・家庭教育 わが子のやる気を引き出すなど
- ・学校行事 PTA や行事への参加、地域活動への参加
- ・その他 PR 活動、具体案への協力、学校や行政に対する要望等

【**検証結果**】(垂水高校生分)生徒自身に何とかしようという意識が芽生えてきたと思われる。それぞれの思いを行動に移せるように手助けしていく必要がある。

【**検証結果**】(高校生保護者) 大部分が学校や行政に対する要望や意見「積極的に協力したい」という声もあり、今後、保護者との情報共有を行うなどし、連携していく必要がある。

魅力ある垂水高校への取り組み要望事項 / 行政、関係団体等

進学や就職に対する支援 経済的支援(通学や学校経費等)

経済的支援(通学や学校経費等) 学校給食導入討 情報(進学・就職)発信

特色ある学校づくり の具体的なアイデア・意見等の提案を受ける。 (*詳細は巻末掲載)

【検証結果】寄せられた具体的なアイデア・意見等の提案を「振興・支援策」に反映する。

・垂水中央中3年生の進路決定に関する調査

(1)垂水中央中3年生の進路希望状況(略)

(2)進路決定におけるニーズ調査

【検証結果】特に必要とする取り組みは「 将来の職業に関する情報の提供」、「 高校生活の情報の提供」、「 それぞれの高校の特色に関する情報の提供」であり、より丁寧な進路指導・キャリア教育の必要性あり。

8 , 改善策作成の背景にある考え方のまとめ作業

「垂水高校を存続」させるためにどういう考えで行けばよいのか 指針作成

テーマ 「魅力ある垂水高校」づくりを「自助・共助・公助」でがんばろう!

【自助】「自分(達)でやれること、やらなければならないことは何か」を明確化し、実践する。

【共助】「助け合ってやれること、やらなければならないことは何か」を明確化し、実践する。

【公助】公的な立場で「地域活性化=住んでよかったと思えるまちづくり」の一環として実践。



そもそも、垂水市が今回行う「垂水高校存続対策」は、

第一義的には、

高校生の「がんばる高校生のチャレンジを応援し、進学・就職の夢をかなえることへの支援策」

垂水高校の「よき社会人をめざして高校生を育成する後期中等教育機関としての振興策実践」

と同時に、

垂水市の「教育振興=高校生の健全育成」と「地域活性化=住んでよかったと思えるまちづくり」の政策の一環として支援。

であり、これらの総合的な「振興策・支援策」を実施することにより

結果として

『垂水高校が「魅力あふれる高校」となり、生徒数が増加していく』ことを目指すもの。



ここで一番大事なことは、「垂水高校」(学校訓「和・学・行」)がこれらの「振興策・支援策」を受けて、どのような「学校経営」を進めていこうとされるのかを深く理解することが肝心。

9 , 改善策作成の指針のまとめ作業 課題解決の指針・プラン作成

(1) アンケート分析等による振興・支援策策定へのステップ作業

(2) 課題解決から振興・支援策の指針作成



「魅力ある垂水高校づくりの5つの柱」作成

学校のイメージアップ

進学・就職の充実

未来を担う人材づくり

垂水の地域振興

垂水高校と関係団体の連携

(1) アンケート分析等による振興・支援策策定へのステップ作業

アンケート分析等による「魅力ある垂水高校づくりの5つの柱」は以下のとおり。

報告書 3 高校進学に対する意識調査より						4 高校生活等に 関する意識調査よ り	振興策提言へのステップと しての視点 (=>振興策提言の指針)
課題 分野 NO.	課題の分野	垂水 高校 生	高校 保護 者	中学 生	中学 保護 者	垂 水 高校生	
1	学校のイメージ向上	9 位	6 位	1 位	5 位	(1)学校生活は 楽しい 34% 普通 59%	中学生で選択割合が高いことから、内実を伴った総合的施策やPRによりイメージ改善・向上を図る。また、「垂水高校のよいところ」をもっと伸ばしアピールしていく。
2	進学に有利な施策	3 位	5 位	2 位	1 位	(2)進路目標 あり 61% 未定 40% (3)学習環境 良い 34% 普通 63%	各調査対象とも割合が高いことから、より一層の「進学に有利」な振興策を展開していく。
3	就職に有利な施策	8 位	7 位	3 位	2 位	(2)進路目標 あり 61% 未定 40% (3)学習環境 良い 34% 普通 63%	中学生・保護者にとっては「就職に有利」が高い選択のポイントとなるので「就職」対策と実績づくりに貢献する施策及び可能な範囲でキャリア教育などを展開していく。
4	通学の便利向上	1 位		4 位			通学の便利さによるメリットを生かした施策の展開を行う。また、地元であることの安心・安全策の更なる充実に努めていく。
5	高校生の部活動やボランティア活動の充実			5 位	6 位	(4)部活動等は 充実している 59% (5)課外活動は 充実している 60%	中学生の関心は中程度だが、垂水高校の在学学生は評価していることから、高校生活を充実させるための部活動やボランティア活動等の施策を展開し、イメージアップに結び付ける。
6	友達・先輩とのふれあい	7 位		6 位	7 位		割合的には少ないが、先輩や同窓会の活動が充実した高校生活や進学・就職、ひいては地元との交

							流やイメージ向上につながるの で、そのメリットを生かした施策 を展開していく。
7	保護者の理解 向上 (両親のすすめ)	4 位		7 位			(関連項目) 進学先選択にあたっては、子供 の意思が優先される傾向があり、 まずは受験生が行きたいと思え る、そして、希望をかなえられる 学校づくりへの施策の展開を行 う。なお、特に中学生・保護者 には垂水高校への理解を深めて いただくと同時にイメージ改善 をはかり、よって両者の進路選 択の意識を向上させる。
8	子どもの意思		3 位		3 位		
9	地元の良さを 生かす (地元で当然)	2 位	2 位				垂水高校生・保護者の声にさら に「垂水高校に行って良かった」 となるように、垂水市等の支援 策による「地元」のメリットを 生かした施策を展開していく。
10	経済的負担の 軽減策		1 位		4 位		今後の振興策実施時の自己負担 増分への補助や対象者の状況に 応じた補助を行う。なお、市外 からの通学生増のために何らか の補助・支援策を検討する。
11	他に進学先なし	6 位					「魅力ある高校」 「特色があり活力のある高校」 の実践
12	特に理由なし	5 位	5 位				

(2) 課題解決から振興・支援策の指針作成

上記の(1)より作成した振興・支援策の骨子案については以下のとおり。

なお、この骨子案はパブリックコメント制度の活用により、平成23年6月6日(月)～7月5日(火)の間市民の意見募集を行った。また市民の会やPTA等の場においても意見交換を行った。

垂水高校存続に向けた振興・支援策について
～「魅力ある垂水高校づくり」のために～ 骨子案

平成 23 年 5 月 垂水市企画課

目次

1. 「魅力ある垂水高校づくり」の目的
 2. 垂水高校の現状と生徒及び保護者の意識調査
 - (1) 垂水高校の現状
 - (2) 「魅力ある垂水高校づくりに関するアンケート」調査結果
 3. 「魅力ある垂水高校づくり」の5つの柱
 4. (仮称) 垂水高校存続対策事業計画書の策定方針及び構成
-
1. 「魅力ある垂水高校づくり」の目的

鹿児島県は、公立高校の適正配置に関する取り組みを進めていますが、大隅地域については「地域の実情や歴史的背景を考慮し学校単位で検討する」という新たな考え方のもとで進めていく方針を示しました。

垂水高校においては、従来の整理統合基準であれば存続が極めて厳しい状況でありましたが、今回の県の方針や動きを受けて、垂水市では、これまでの振興対策を大きく見直し、垂水高校の存在意義からなる存続対策と振興対策を次の様な視点で取り組みを進めていくことになりました。

垂水高校が本市になくってはならない教育施設として位置付けされるため、本市全体の共通認識を図っていく。

魅力ある「垂水高校」をつくるため、市及び関係団体等があらゆる取り組みを進めていく。

垂水高校振興施策の実現により、高校生の健全な育成に寄与していく。

垂水高校振興施策の実現により、垂水市の地域活性化を図っていく。
 2. 垂水高校の現状と生徒及び保護者の意識調査
 - (1) 垂水高校の現状

垂水高校の歴史、沿革、校訓

垂水高校は、大正 14 年に高等女学校としてスタートし、昭和 23 年、31 年の改称を経て、今年創立 85 周年を迎えた卒業生 10,162 人を誇る歴史と伝統のある学校です。

現在、校訓の「和・学・行」のもと、生徒と先生が心を一にして学校生活を楽しんでいます。

学級編成・生徒数

垂水高校は、昭和 46 年、普通科 12 学級、家政科 3 学級をピークに、少子化や社会情勢の変化により学級再編が行われ、現在、普通科 3 学級、生活デザイン科 3 学級が設置されています。生活デザイン科は、本県に唯一ある家政系の学科です。

生徒数は、現在 135 人ですが、これまでの卒業生は延べ 10,162 人を数え、地域社会や産業界に多くの人材を輩出してきました。
 - (2) 「魅力ある垂水高校づくりに関するアンケート」調査結果

アンケート調査概要

垂水高校生徒（135人）、同生徒保護者（125人）、垂水中央中3年生徒（143人）、同生徒保護者（140人）に対して、アンケート調査を実施しました。

回収率は全体で88.4%と高く、また、自由記述欄への記入も多く、垂水高校問題に対する意識の高さが表れた結果となりました。

調査結果報告書の公表

調査結果報告書を作成し、垂水市役所2階情報公開室で公表しています。

課題分野に対する振興策提言への視点のまとめ

a) 学校のイメージ

中学生で選択割合が高いことから、内実を伴った総合的施策やPRによりイメージ改善・向上を図る。また、「垂水高校のよいところ」をもっと伸ばしアピールしていく。

b) 進学に有利な施策

各調査対象とも割合が高いことから、より一層の「進学に有利」な振興策を展開していく。

c) 就職に有利な施策

中学生・保護者にとっては「就職に有利」が高い選択のポイントとなるので「就職」対策と実績づくりに貢献する施策及び可能な範囲でキャリア教育などを展開していく。

d) 通学の便利向上

通学の便利さによるメリットを生かした施策の展開を行う。また、地元であることの安心・安全策の更なる充実に努めていく。

e) 高校生の部活動やボランティア活動の充実

中学生の関心は中程度だが、垂水高校の在學生は評価していることから、高校生活を充実させるための部活動やボランティア活動等の施策を展開し、イメージアップに結び付ける。

f) 友達・先輩とのふれあい

割合的には少ないが、先輩や同窓会の活動が充実した高校生活や進学・就職、ひいては地元との交流やイメージ向上につながるので、そのメリットを生かした施策を展開していく。

g) 保護者の理解向上（両親のすすめ）

h) 子供の意思

進学先選択にあたっては、子供の意思が優先される傾向があり、まずは受験生が行きたいと思える、そして、希望をかなえられる学校づくりへの施策の展開を行う。なお、特に中学生・保護者には垂水高校への理解を深めていただくと同時にイメージ改善をはかり、よって両者の進路選択の意識を向上させる。

i) 地元の良さを生かす

垂水高校生・保護者の声にさらに「垂水高校に行って良かった」となるように、垂水市等の支援策による「地元」のメリットを生かした施策を展開していく。

j) 経済的負担の軽減策

今後の振興策実施時の自己負担増分への補助や対象者の状況に応じた補助を行う。なお、市外からの通学生増のために何らかの補助・支援策を検討する。

3. 「魅力ある垂水高校づくり」の5つの柱

5つの柱 基本方針 課題の分野	説明・方針の内容	成果イメージ (目標の指針)	目 標
学校のイメージアップ 学校のイメージ 通学の利便 高校生活の充実	中学生の学校選択の第1位に上がっていたことから、垂水高校に対する総合的なイメージ改善を目指すもの。このため、垂水高校のよいところ（小規模校等）を生かしながら、イメージ低下を招いている点を改善していく。さらにこれらの取り組みなどを小・中学生やその保護者、地域住民に丁寧にPRし、学校のイメージアップを行っていく。	生徒一人一人を大切にできる「小規模校」としての機能を十分生かした学校づくりを進めている。 生徒は垂水高校生という自覚を持ち、充実した学校生活を送っている。 地域や保護者にとって、垂水高校は安心安全な学校として認識が進んでいる。 垂水中央中及び県内の中学生・保護者から、魅力ある学校として認識され、行きたい学校となっている。	[1] 県内でも人気のある学校づくり
			[2] 活力ある学校づくり
			[3] 地域貢献する学校づくり
			[4] 安心して通わせられる学校づくり
			[5] 生活デザイン科の特色を生かした学校づくり
進学・就職の充実 進学に有利 就職に有利	生徒からは、自分の将来目標の実現のため、進学や就職に対して大きなニーズがあることから、生徒の進路決定に対して、できるだけ支援が行えるよう取り組みを進	生徒一人一人の目標実現のため、適切な進路指導が行われている。 地元企業を中心とした就職枠が確保されている。	[1] 就職、進学希望者の目標実現
			[2] キャリア教育の推進
			[3] 地元企業対策（就職枠・雇用支援）

	めていくものである。		
<p>未来を担う人材づくり</p> <p>友達、先輩とのふれあい 子供の意思</p>	<p>垂水高校の校訓「和・学・行」に基づく人材育成の実践及び市教育振興計画の基本目標「あしたをひらく心豊かでたくましい人づくり」の実現に向けた取り組みを進めるものである。</p>	<p>生徒は日本や世界の将来を背負っていくということを自覚している。</p> <p>生徒一人一人の能力が十分に発揮されている。</p> <p>生徒は垂水の歴史、現状を知り、垂水に愛着を持っている。</p>	[1] 将来設計ができている生徒の育成
			[2] 地元を知り、愛する生徒の育成
			[3] 生徒一人一人が輝ける活動の推進
<p>垂水市の地域振興</p> <p>地元の良さを生かす 経済的負担の軽減</p>	<p>高校がなくなることで本市の地域振興、経済を含め多大な影響があることから、子育て支援や学業支援策による定住対策と企業誘致や雇用対策などに取り組み、本市の発展を目指していくものである。</p>	<p>地域と連携した活動が行われ、垂水高校が地域になくならない学校として認識され、地域振興が進んでいる。</p>	[1] 地域に信頼され期待される地域の中の学校づくり
			[2] 垂水市への定住促進（子育て支援）
			[3] 企業誘致及び雇用対策
<p>垂水高校と関係団体の連携</p> <p>保護者の理解</p>	<p>これらの取り組みは、垂水高校だけでなく関係団体が同じ目標に向かい連携しながら取り組んでいく必要があることから、垂水市及び大隅地域振興の視点も踏まえて、効果的な事業推進が行えるよう取り組んでいく。</p>	<p>高校と行政、地域、小中学校、同窓会、PTA、産業界などとの連携が進み、振興対策で実施する事業が円滑に進んでいる。</p>	[1] 県教委、大隅地域との連携促進
			[2] 垂水高校振興対策協議会の活性化
			[3] 関係団体等による活動支援

4. 垂水高校振興支援計画書（存続対策事業計画書）の策定方針及び構成

(1) 事業計画書の策定方針

本事業計画書の策定にあたっては、アンケート結果に基づく「魅力ある垂水高校づくりの5つの柱」に定めた内容を実現するため、垂水高校振興対策協議会及び市民参加のもと具体的な施策を立案していくものとします。

なお、広く民意を反映させるために、パブリックコメント制度による意見聴取を行うものとします。

(2) 事業計画書の構成

本事業計画の構成は、次のような構成とします。

「魅力ある垂水高校づくり」への提言（垂水市長のメッセージ）

「魅力ある垂水高校づくり」の政策実現に向けて

垂水高校の存在意義について（なぜ垂高を存続させるのか）

現状分析・情報収集結果（アンケート調査結果の分析等）

課題解決の指針（課題に対する今後の展開方針）

「魅力ある垂水高校づくり」の5つの柱

具体的振興策

関係各主体の振興策の実施、進捗確認

～支援ネットワークの構築と持続可能な存続対策のために～

10. 「魅力ある垂水高校づくりの振興・支援策」の策定について

これまで、企画課調整係において、「魅力ある垂水高校づくりの振興・支援策」については基本方針である5つの柱をさだめ、パブリックコメント制度の活用による意見の募集及び市民の会やPTA等の場においても意見交換を行った結果、それぞれの基本方針の目標ごとに振興策、それに基づく「振興策実現の施策・アイデアの指針」と支援策を策定したところです。

その結果

基本方針 計 5

目標 計 17

振興策 計 21

それに伴う

「振興策実現の施策・アイデアの指針」 計 46

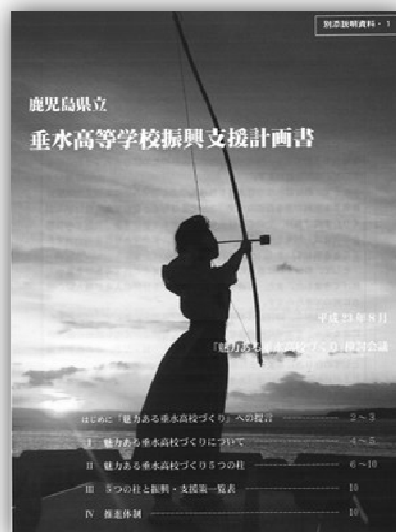
支援策 計 46

となりました。

詳細な内容については

冊子「垂水高等学校振興支援計画書」の中の

「魅力ある垂水高校づくりの振興・支援策」を参照。



魅力ある垂水高校づくりの5つの柱と振興支援策 イメージ図

* 正本は冊子「垂水高等学校振興支援計画書」に綴じ込。

魅力ある垂水高校づくりの5つの柱と 振興・支援策一覧表																																
基本方針 課題の分野	説明、方針の内容	成果イメージ (目標の指針)	目標	振興策	振興策実施の施策・アイデアの指針 (*詳細は「事業計画書」参照)	通し	実施主体	支援策	支援策の活動主体																							
学校のイメージアップ	中学生の学校選択の単位に上ったこと、垂水高校に対する総合的なイメージ改善を目指すもの。このため、垂水高校のよいところ(小規模校等)を生かしながら、イメージ低下を招いている点を改善していく。さらにこれらを取り組みなどを小・中学生やその保護者、地域住民に丁寧にPRし、学校のイメージアップを行っている。	生徒一人一人を大切にできる「小規模校」としての機能を十分に生かした学校づくりを進めている。 生徒は垂水高校生という自負を持ち、充実した学校生活を送っている。 地域や保護者にとって、垂水高校は安心安全な学校として認識が深まっている。 垂水中央及び県内の中学生・保護者から、魅力ある学校として認識され、行きやすい学校となっている。	県内でも人気のある学校づくり	魅力ある垂水高校づくりの各振興策の実現による成果等や垂水高校の良しところ(少人数・ユニークな)学習環境・進路)を積極的にアピールしている。広報方法を強化する取り組み	より効果的な学校紹介ビデオ・パンフレット等の制作・配布 定期的なプレスリリース発信 学校説明会(市外中校含む)の充実	1	垂水高校	企画製作全般は専門業者のノウハウを活用する。将来的には自作への支援。 常に情報発信(イベント・特色ある活動等)による意識と活動の向上、及び広報キルの向上に市広報課を活用。 市内および市外中学校の受入れ、及び説明会・資料作成への助言。	1	垂水市・市教委																						
											学校のイメージアップ	元気のある各種校内活動を展開し、その活力が学校を、ひいては地域を活性化させる事業の取り組み	学校行事(体育祭、文化祭)の土日開催と内容の向上及び生徒会・部活動等の活動充実 生徒の思いが一つになり、垂水高校の元気をアピールし、地域との交流を図る活動やイベントの開催	4	垂水高校	参加呼びかけの広報や活動支援。	4	垂水市・市教委 関係団体 市民														
																			ポランティアや各種行事への参加及び地域貢献をいかに活動により高校生の意識を高め、地域貢献とされ、地域から信頼される活動の取り組み	ポランティアや各種行事への参加及び地域貢献をいかに活動により高校生の意識を高め、地域貢献とされ、地域から信頼される活動の取り組み	7	垂水高校	関係団体・市民への協力依頼や機運醸成。参加呼びかけの広報の支援。	7	垂水市 関係団体 市民							
																										通学・修学環境を安心安全なものとする取り組みや、小・中学生や地域住民から信頼される学校づくり	各団体による通学・修学環境の安心安全を図る活動の実施(交通安全、知事乗車禁止等) 風紀・礼儀向上活動の実施	9	垂水高校及び関係団体 垂水市	関係団体による垂水高校生関係の取り組みと協力 関係団体による垂水高校生関係の取り組みと協力 市役所の教育への取り組みと連携した支援	9	垂水市・市教委 関係団体 市民
通学・就職の充実	生徒は、自分の将来目標の達成のため、進学や就職に向けて必要な準備が整っている。進学の進路決定に、できるだけの支援が行えるよう取り組みを進めているものもある。	就職、進学希望者の目標実現のため、地域や関係団体と連携して進路実現のための体制を構築し、よりよい実績を目指す取り組み	11	垂水高校	関係団体・市民による学力向上支援・外国語向上、進路PRの推進・支援 資格取得費用の補助 進路決定の支援・関係団体・市民への協力依頼 広報活動の支援	15	垂水市・市教委 関係団体 市民																									
								進学・就職の充実	社会の変化に対応し、しっかりとした勤労観、職業観を身に付け、様々な課題に柔軟に対応でき、まじめに社会人・職人として自立している高校生を育てる取り組み	中小中学校からのキャリア教育・進路指導推進 正しい職業観と生活に資する講演会の実施(08の活用)	19	垂水市・市教委	垂水市のキャリア教育推進の現状と支援 行政・関係団体・市民・同窓会(卒業生)による協力 相談体制の充実への取り組み	19	垂水市・市教委 関係団体 市民																	
																進学・就職の充実	社会の変化に対応し、主体的に自己の進路を選択し、決定できる能力を持ち、明確な目的意識を持って日々の学校生活を送る高校生を育てる取り組み	地元企業との交流を図り、期待される学校・高校生像を探索し、より良い実績を目指す取り組み	22	垂水高校	情報収集への協力や商工会や地元企業への連携し、地元企業との交流を図るような体制作りへの支援	22	垂水市・市教委 関係団体 市民									
																								進学・就職の充実	未来志向の将来設計に資する講演会の実施及び進路相談の充実 PTA活動、家庭教育の充実	未来志向の将来設計に資する講演会の実施及び進路相談の充実 PTA活動、家庭教育の充実	24	垂水高校	講演会実施費用の補助や講師選定時の協力や関係団体の関係団体の協賛や利便性の向上と校外の進路相談人材の発掘と協力 各種情報の提供	24	垂水市・市教委 関係団体 市民	
																																進学・就職の充実
進学・就職の充実	生徒が自分たちの学校に魅力を感じ(所属感、自己有用感)、自信と誇りをもって高校生活を送ることができる取り組み	表彰制度 活躍の場の創出	29	垂水市・市教委 関係団体 市民	表彰制度への財政的支援 まちづくり活動や市内各種コンクール・大会等に垂水高校生の活躍を促す	29	垂水市・市教委 関係団体 市民																									
								進学・就職の充実	地域に開かれ信頼される学校を実現するために、保護者や地域住民の意見や要望を的確に反映させ、情報提供を行う。家庭や地域社会と連携が図れている。それと同時に、保護者や地域住民が学校に積極的に関与していく取り組み	あいつつ運動 各種イベントへの参加 垂水中央中生連・保護者及び高校生保護者や地域住民の意見や要望を把握し、いかにしていく	31	垂水高校	垂水市あいつつ運動との連携や市民への啓発 垂水高校生の活躍を促進し、参加促進の理解を促す 垂水高校振興協議会、の活用や垂水中央中関係への協力	31	垂水市・市教委 関係団体 市民																	
																進学・就職の充実	より安心して垂水高校に通わせることができるように、経済的負担の軽減や通学・就職活動支援等を行うことにより高校生活の安定と垂水市の定住につながる取り組み	通学・修学・進学・就職に関する各種補助・支援策の充実 垂水市子育て支援施策に垂水高校生及び保護者の交流を推進し内容に充実垂水市子育て支援策の内容充実	34	垂水市・市教委	垂水市役所が実施する各種補助・支援策への協力 垂水市子育て支援策への理解	34	垂水高校									
																								進学・就職の充実	地元企業に関心を持ち、自分がいかに職業を発見できる。地元企業との関係性を築き、また、地元企業、事業所をはじめ、NPO等との各関係機関との連携強化を図る取り組み 雇用創出や定住化につながる企業誘致の推進と地元企業誘致及び創業支援の取り組み	学校と企業との交流推進 創業支援策の検討 雇用が見込まれる企業との誘致と地元企業等との連携	36	垂水高校	垂水市の雇用対策部による地元企業紹介や雇用情報の取りまとめ、地元企業等との連携作り 商工会・関係機関間の協力 商工会・関係機関間の協力	36	垂水市・市教委 関係団体 市民	
																																進学・就職の充実
進学・就職の充実	垂水高校振興対策協議会参加の団体等が垂水高校の振興につながる施策や課題解決に積極的に取り組む。効果ある実績を現していく取り組み	協議会の定期開催(3カ月に1回程度) 協議会における支援体制の確立と進捗確認	42	垂水市・市教委	関係団体・市民・垂水高校の振興の推進	42	垂水市・市教委 関係団体 市民																									
								進学・就職の充実	PTAや同窓会及び市内関係団体等が自ら役割を認識し積極的な支援活動を行い、そのことが垂水高校及び垂水市の活性化につながっていく取り組み	PTAや同窓会・同窓会及び行政・市内関係団体・NPO等における垂水高校支援体制の確立と実践 垂水高校による各種団体、個人等との支援体制の確立と実践 各団体、個人等の支援情報の収集と活用体制の確立及び市民・関係団体との連携	44	垂水市・市教委	関係団体・個人等もしくは垂水高校を通じてPTA、同窓会、垂水市・市教委、関係団体、市民 各団体、個人等の支援情報の収集と活用体制の確立及び市民・関係団体との連携	44	垂水市・市教委																	
																進学・就職の充実	本振興・支援事業への理解と協力	46	垂水市・市教委	本振興・支援事業への理解と協力	46	垂水市・市教委										

(骨子案市長挨拶抜粋)「魅力ある垂水高校づくり」への提言

～垂水高等学校存続への垂水市民の思いと強い決意

平成 23 年 6 月 垂水市長 尾 脇 雅 弥

古来より「教育は永遠である」と言われています。それは教育があらゆる社会の基盤であり、持続可能な社会づくりのために必要欠くべからざるものだからだと思います。

そして、教育基本法第一条の教育の目的においては、「教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行わなければならない」とあり、また鹿児島県においても県教育振興基本計画の基本目標の中で「あしたをひらく心豊かでたくましい人づくり」を掲げおり、そのことは未来に生き未来を形成する「主体である青少年の育成」が今を生きる我々の崇高で最大の使命であり義務の一つであることを示しています。

そのために、「人間形成」や「社会を生きぬく」青少年の教育に、教師や親は愛を惜しみなく注ぎその持てるものをすべて捧げてきました。また、行政や地域民やあらゆる分野の人々がおしみなく助力に努めてきたのです。

しかしながら、時代は「少子高齢化」や「過疎化」そして「経済的不況の歪み」を地域に出現させ、社会を支える構造が変化し地域の活力が失われ、ひいては教育の基礎たる学校の生徒数の減少など、その教育機関としてのあり方にさまざまな影を落としています。

これに対し、我々は「あきらめや妥協や挫折」を拒み、少しでも現状を改善しようとする強い意志があります。

それは、県においても「かごしま未来ビジョン」や「大隅地域未来ビジョン」として示され、厳しい環境の中にあっても、可能性を強く信じて、すべての県民が郷土に夢と誇りを持ち、生涯を安心して過ごせるような鹿児島づくりに果敢に挑戦しているところです。

それは垂水市民も同じ思いであり、市の基本理念の一つに「将来へ自信を持って引き継げる環境に配慮したまちづくり」を掲げ、未来ある青少年の育成と未来に託せるまちづくりを目指しており、そのことは何よりも今を生きる我々に責任があるということを意味しているのです。

さて、いま大隅地域の小規模な高等学校の存続が危惧されており、この垂水市にある「垂水高等学校」自体においてその「あり方」が問われています。しかし、その中には子供たちのそして保護者の「悲痛な声」があり、垂水市民の「大いなる憂い」があります。我々は常に「希望に満ちた未来を見据える青少年」の笑顔を守らなければなりませんし、全力を尽くすべきです。

今求められている「大隅地域の高等学校のあり方」と「垂水高等学校のあり方」は、高等学校が地域の人々の思いをつなぐ存在であるがゆえに、ひとえに、厳しい現状を見据えながらも課題解決に向けて、「学校、家庭、行政及び地域住民その他の関係者」がそれぞれの役割と責任を自覚し、相互の連携及び協力に努め、できることを一歩ずつやっていくことにかかっています。

我々垂水市では、ここに「垂水市に、そして大隅地域に存在する垂水高等学校のあり方」への提言として、「魅力ある垂水高校づくりへの支援策」をまとめました。

この支援策については充分ではないかもしれませんが、それを補いこれからもずっと垂水高校が存在するためには、皆さんの強い意志と協力が必要です。

「大隅地域の高校に、垂水高等学校にそして垂水市に、活力ある新しい風を吹かせましょう！」

【「垂水高等学校振興支援計画書」の実践（実現の確保）について】

なお、それぞれの振興策、それに基づく「振興策実現の施策・アイデアの指針」と支援策の具体的な内容については「**【事業個票】 魅力ある垂水高校づくりの5つの柱と振興・支援策に基づく具体的な取り組み**」として整理したところですが、これについては9月以降に具体的な取り組みの決定にあたって、主体である垂水高校における決定・調整（特に時期的なもの）及び垂水市における推進態勢の確立と財政的裏付け、及び関係団体との協議において、「振興対策部門」において今後継続して取り組み内容の明確化を図る必要があることから、この作業過程における作業イメージと個別管理を主眼にまとめたところです。

（したがって、具体的な取り組み内容や支援策において未入力欄がありますが、今秋・冬の明確化作業を通じて平成24年4月実施できるよう準備。なお、明確化作業過程においてすぐに取り組めるものは実施。）

今回の「**【事業個票】 魅力ある垂水高校づくりの5つの柱と振興・支援策に基づく具体的な取り組み**」の主なるもの実施時期については平成24年4月以降を想定しております。

しかしながら、**当面の課題である平成23年4月垂水高校入学者の増加を図るためには、本年度の9月以降には「主なるもの（早急に取り組めるもの）」を確定し、財政的裏付け等の作業・広報を行わなければなりません。**

また、県における大隅地域における公立高校の在り方の取りまとめは平成24年3月であり、具体的な県教委の振興策等の提示はそれ以降になると予想されます。

今回の各分析により、入学者数を増やすためには、**5つの柱に基づく振興策・支援策と同時に**垂水高校において

普通科の入学者数の増（市外普通科高校進学者及び市外から垂水高校に向かわせる方策）

生活デザイン科の入学者数の増（市内はもとより市外からの入学者の増を図る方策）

専門家系学科進学者の垂水高校普通科への増（卒業後に専門家系へと進むための方策）

生活デザイン科から大学へと進む進学態勢の確立と広報への課題解決策の提示と、

そして何よりも

今後「**垂水高校は地域に貢献し、地域に支えられる高校**」として高校はもとより、市行政・関係団体が**積極的に取り組んでいくことのアピール**が必要と考えます。

【喫緊課題である平成24年度入学生徒数増加につながる施策について】

上記の課題解決のため、9月以降に早急に取り組むべき事項として

A 広報の充実（市報）と各種イベント・大会等での垂水高校の出番確保とアピール

【広報の充実】

（計画書裏付け）（学校のイメージアップ） - [1]県内でも人気のある学校づくり - （2p）

振興策 魅力ある垂水高校づくりの各振興策の実現による成果等や垂水高校の良いところ（少人数・コミュニケーション・学習環境・進路）を積極的にアピールしていく広報方法を強化する取り組み

支援策 常に情報発信（イベント・特色ある活動等）する意識と活動への支援。及び広報スキルの向上と市広報紙の活用。

【各種イベント・大会等での垂水高校の出番確保とアピール】

(計画書裏付け) (学校のイメージアップ) - [3]地域貢献する学校づくり - (7p)

振興策 ボランティアや各種行事への参加及び地域資源をいかした活動により高校生の意識を高め、地域住民とふれあい、地域から信頼される活動の取り組み

地域との交流を図り、地域に貢献するイベントの実施と地域行事への参加

支援策 関係団体・市民への協力依頼や橋渡し。参加呼びかけの広報の支援。

(計画書裏付け) (未来を担う人材づくり) - [3]生徒一人ひとりが輝ける活動の推進 - 活躍の場の創出 (30p)

振興策 生徒が自分たちの学校に魅力を感じ(所属感、自己有用感) 自信と誇りをもって高校生活を送ることができるような取り組み

支援策 まちづくり活動や市内各種コンクール・大会等に垂水高校生の活躍を提供する

B 財政的援助 が必要と考えます。

(計画書裏付け) (学校のイメージアップ) - [5]生活デザイン科の特色をいかした学校づくり - 通学費補助及び寮・下宿の確保と支援 (14p)

(計画書裏付け) (進学・就職の充実学校のイメージアップ) - [1] 就職、進学希望者の目標実現 - 資格取得推進 (16p)

(計画書裏付け) 垂水市の地域振興 - [2]垂水市への定住促進(子育て支援) - 通学、就学、進学・就職に資する各種補助・支援策の充実 (34P)

以上で、企画課計画調整係における「魅力ある垂水高校づくりの振興・支援策」事務作業については「存続部門」としての振興策・支援策策定作業はひとまず終えて、今後は「庁内検討会議」及び地区検討会における「垂水高校の在り方」報告書のとりまとめの作業となります。

【振興支援策の今後の課題について】

「魅力ある垂水高校づくりの振興・支援策」の具体的な内容の取り組みは、第1回「垂水地区検討会」において提示したように、大隅地域の公立高校の在り方検討委員会のまとめる振興策の内容とあいまって、垂水高校の「地域に貢献し地域に支えられる高校」としての振興に役立つものと考えております。

ところで、本年4月において「垂水高校存続対策事業」の推進運営体制については、調整を行う(コーディネーターとしての役割)としての「存続対策部門」として事務局は企画課計画調整係が、存続対策部門で示された方針をもとに垂水高校の振興対策施策の企画、調整、実施等を行う「振興対策部門」を設置することとなっております。

特に、「振興対策部門」については、主体を「垂水高校振興対策協議会」とし、同協議会の事務局は教育委員会教育総務課とする、ことを決定しております。

今後の作業として、いよいよ「振興対策部門」において存続対策部門で示された方針をもとに垂水高校の振興対策施策の企画、調整、実施等を着実に進行する必要があり、上記で記述した「【事業個票】魅力ある垂水高校づくりの5つの柱と振興・支援策に基づく具体的な取り組み」の取りまとめと実施に向けた諸作業を早急に行う必要があります。

11、「垂水高校の在り方(案)」の策定について

(1)策定の背景・・・なぜ策定しないとイケないのか？

県の動き

(H22.2.14)伊藤知事は記者会見で、同方針について「地域間格差是正の観点から、(県教委に)見直しをお願いしている」と説明。

大隅地域の高校振興のあり方については「高校を減らすだけが目的ではなく、例えば全国の高校生を募集の対象にするなど、大隅地域の発展につながるような高校再編ができないか」と述べる。

(H23.2.25)

鹿児島県原田教育長は県議会定例会の代表質問に答えて、「今後は骨子案の廃止基準にこだわらず、学校単位で検討したい」と、地域の実情や歴史的な背景を考慮し、個別に対応する方針を明らかにする。

これを受けて、鹿児島県は、大隅地域の公立高校の充実・振興策を検討する委員会を設置すると発表され、2011年度一般会計当初予算案に大隅地域高校振興事業として、300万円を計上された。

第1回垂水地区検討会での県教育委員会説明より:(説明要旨)

第1回垂水地区検討会での

県教育委員会:(説明要旨)

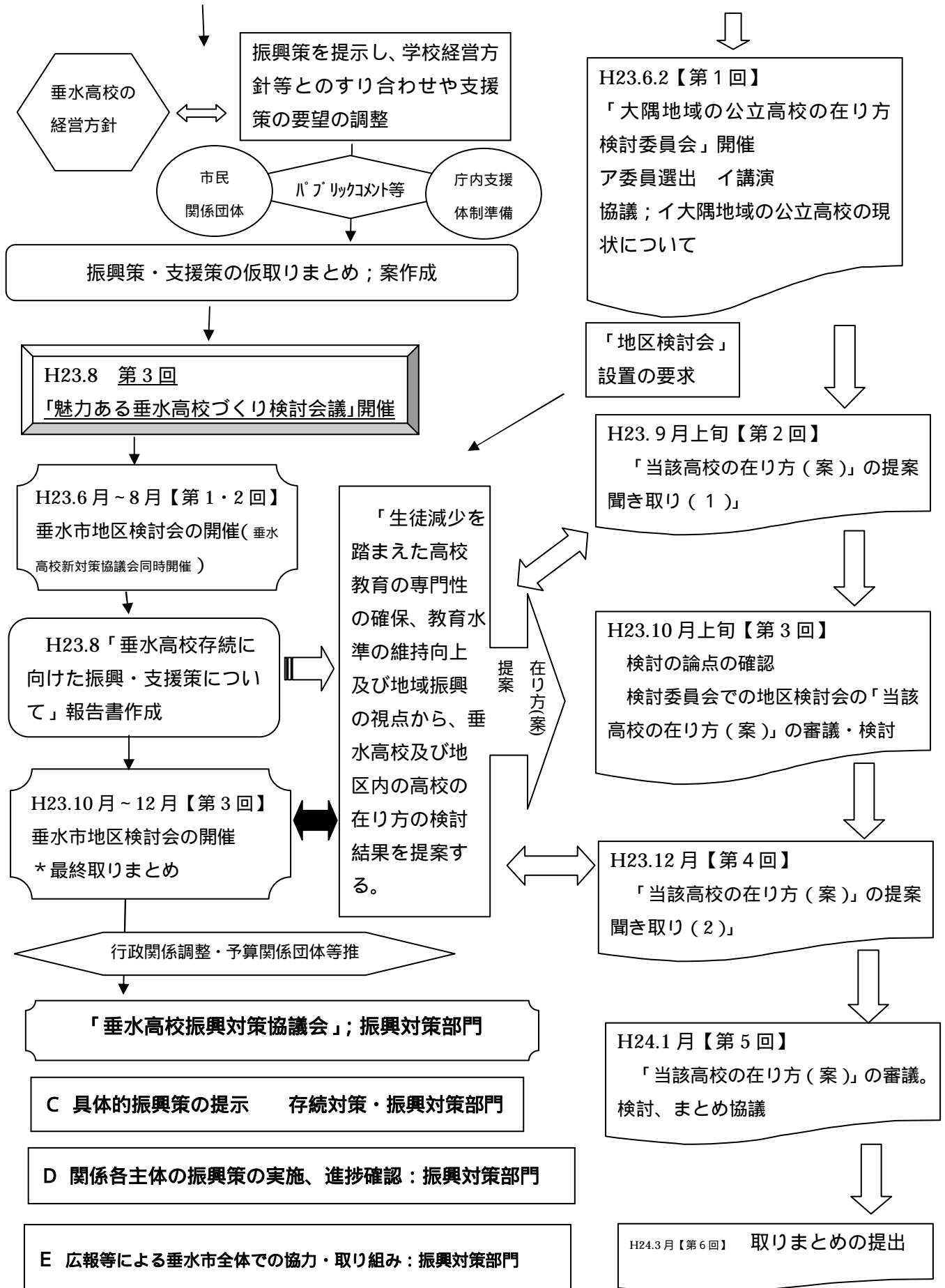
- ・垂水高校については、地元の皆さんが、熱い気持ちで存続に向けているんなアイデアを出して頂いており、市全体で取り組んでいるという認識でいること。
- ・将来的に子供の数は減っていく中で、これまで県教委は高校教育の水準の維持、確保ということで、県内各地、再編統合ということでやってきたが、今後、地元の方々と協議を重ねる中で、地域の振興という視点を加えた中で検討していくということになったこと。
- ・地域振興という視点であるが、地域の振興につながる垂水高校の在り方、活性化として一体どういうものが考えられるのか、あるいは垂水の地域性、地域での特性がどう垂水高校の魅力へとつながっていくのか検討されていること。

- ・地区検討会設置依頼までの大まかな流れであるが、平成21年3月、鹿児島県公立高校の再編整理計画検討委員会が設置され、昨年3月答申が出された。それをもとに昨年10月、公立高校の振興方針骨子(案)を発表したが、骨子案の中にある廃止基準に関して様々な意見があり、また同時に地域間格差が伊藤県政の1つの課題としてクローズアップされてきたことから、特にこの大隅地域においては、地元の皆様と十分に協議を重ねた上で高校の在り方を考えていくということになった。
- ・6月2日に第1回の「大隅地域の公立高校の在り方検討委員会」を開催。また、大隅地域を7つのブロックに分け、地区検討会の設置を依頼した。この2つの会がお互いフィードバックする形で意見のやり取りをしながら、来年3月に大隅地域全体のとりまとめを行う。

(2) 在り方提案における垂水市、垂水地区検討会及び大隅地域検討委員会との関係

【垂水市】 「垂水高校振興・支援策」

【鹿児島県】



(3) 策定時の基礎となる考え方について

[1] これまでの取り組み経過の集約

今回の問題の契機・経過

- ・ 県教委の「廃止基準」、県知事・県教委の考え、大隅地域での「検討会」について
- ・ 垂水高校の生徒数・市内生徒数等の経過

垂水市の取り組み状況の説明

- ・ 市役所内の「存続対策事業」推進体制構築の経緯
- ・ 「振興会議」と「検討会議」の役割
- ・ 目的「魅力ある垂水高校」の背景と期待される効果
- ・ 今後の事務進行の流れ説明 現在はアンケート調査・分析の期間

今回の問題解決のポイントについて

- ・ a 「垂水高校の存在意義」
- ・ b 「垂水高校の振興」への振興支援策
- ・ c 「地域振興という視点」

大隅地域「検討会」への提言

まとめとして、この問題は学校現場だけではなく、行政・地域などが一体となって考え・行動していくことが重要。

(4) 「大隅地域の公立高校の在り方検討委員会」の【設置目的】は

『大隅地域における公立高校の充実・振興を図り、特色ある高校づくりや、大隅地域の活性化につながる具体的な方策を検討する。』

垂水市においても、先ほど垂水高校の在り方(案)として提示させていただいた「地域に貢献し、地域に支えられる高校」の実現は、「垂水高校の充実・振興を図り、特色ある高校づくりや、垂水市ひいては大隅地域の活性化につながってほしい」という思いが根底にあります。

今回、大隅地区検討委員会より「高校の在り方を高校の所在する地元にはまずは考えていただく」ということは、それはすなわち「垂水高校の地域における役割や状況を知り、それをいかしながら、垂水市ではどのように垂水高校を活性化させようとしているのか」という課題でもあります。

垂水市では、在り方(案)をまとめ上げる作業と並行して、この課題の解決 と 在り方(案)に示した内容の実現に向けて、これまでの振興対策を大きく見直し、この8月に「県立垂水高等学校振興支援計画書」を策定いたしました。

(5) 「垂水高校の在り方(案)」について・・・以下の通り垂水地区検討会で了承された。

垂水高校の在り方（案）

<p>提 案 者</p>	<p>「大隅地区における県立垂水高等学校の在り方に関する地区検討会」 (略称；垂水地区検討会)</p>
<p>対 象 校</p>	<p>県立垂水高等学校</p>
<p>在り方(案)</p>	<p>垂水地区検討会では垂水高校が、在学及び今後進学しようとしている生徒・保護者、そして垂水市民にとって「なくてはならない存在」であり、垂水高校の今まで果たしてきた役割や歴史・伝統的な背景を踏まえて 今も、これからも垂水高校の在り方として、 「地域に貢献し、地域に支えられる高校」であることを望みます。</p>
<p>理 由</p>	<p>今回各地区検討会に「当該高校の在り方」の提言を求める端緒となったものは、「高校の教育的役割」のさらなる充実の取り組みを踏まえながらも、大隅の抱える「地域間格差」の問題を通して、経営主体である県並びに県教委及び実施主体である当該高校が、当該高校の教育方針・経営方針を通していかに当該地域の「地域振興」に貢献しうるかが求められているからであり、そして同時に、それらの活動を地域がどのように支えていくのかが求められている。</p> <p>よって、これらの課題を解決するために、上記の「在り方（案）」を提示し、別紙1の「地域に貢献し、地域に支えられる高校」の実現に向けての取り組み事項の実現を図ろうとするものである。</p> <p>【垂水市における「在り方（案）」への取り組み】</p> <p>垂水市においては、「垂水高校の存続・振興」が垂水市総合計画で掲げる基本理念・将来像の目標の実現に大いに貢献し、市民生活の向上・地域活性化に資するものである。</p> <p>このことから、垂水市では現在「魅力ある垂水高校づくり（垂水高校存続・振興対策事業）」をより充実させるために取り組んでおり、県教委の垂水高校への指導・協力や垂水高校の教育・経営方針に基づく様々な取り組みに対し、垂水市全体での支援を行おうとしております。</p>

【主題】

垂水高校の振興策である「魅力ある垂水高校づくり」に向けた市民・行政・関係団体等の取り組みにおいて、支援ネットワークの構築と持続可能な存続対策を前提に、「魅力ある垂水高校づくりに向けた振興・支援策の5つの方針」に基づく各施策を実施しながら、「垂水高校の在り方(案)」において提示した「地域に貢献し、地域に支えられる高校」の実現に向けて、以下1、「達成すべき内容」を示す。

1、「達成すべき内容」

「地域に貢献する高校」について

地域の生徒の進学先として教育に貢献し永続的に存続している高校

小規模校の良さを生かし、教師・生徒の良さを生かす高校

「個に応じた教育」がなされ、生徒一人ひとりの能力や個性が伸びる高校

感性豊かな心優しい生徒が育つ高校

進学・就職に最大限の努力を払う高校

在学する生徒に対して安心・安全に勉学する環境に取り組む高校

高校・生徒の元気が、地域を活性化させ、地域とともに歩む高校

垂水市の自然や産業などを生かし、地域と交流する高校

生徒が積極的にボランティア活動に参加し、社会貢献する高校

積極的な広報により地域へ情報を発信し理解を促進している高校

「地域に支えられる高校」について

生徒・保護者が信頼し支援している高校

教育目標や経営方針が広く周知されている高校

垂水市の行政が高校と交流を図り高校の課題に対して継続的に支援している高校

大隅地域や県の関係部署が地域教育力向上や地域間格差改善のために継続的に支援している高校

同窓会組織が進学や就職、教育環境の改善に積極的に取り組んでいる高校

市民や関係団体が、交流を図り高校の活性化のために支援している高校

別添付属資料

研究報告書 「垂水高校の存在意義と地域振興について」 【参考資料1】

研究報告書 「魅力ある垂水高校づくりの調査研究報告書」 【参考資料2】

「鹿児島県立垂水高等学校振興支援計画書」 【参考資料3】

(6) 「垂水高校の在り方(案)」の実現・実効性の確保について

～ 垂水地区検討会における「垂水高校の在り方」の取りまとめについての方向性について～ 8/17 追加資料

「垂水地区検討委員会」と 垂水市「垂水高校振興対策事業」とのかかわり

「大隅地域における垂水高校の在り方」とは？

「垂水市にとって垂水高校はどういう存在であってほしいのか」 + (その裏付けとなるもの)

垂水市では垂水高校が、在学の生徒・保護者、今後進学しようとしている生徒・保護者、そして垂水市民にとって「なくてはならない存在」であり、

垂水高校の今まで果たしてきた役割や歴史・伝統的な背景を踏まえて
今も、これからも

【主題】 垂水高校のあり方として、「地域に貢献し、地域に支えられる高校」であることを望みます。(案)

【大隅地域検討委員会への報告内容】

「在り方」のイメージ

「地域に貢献する高校」について

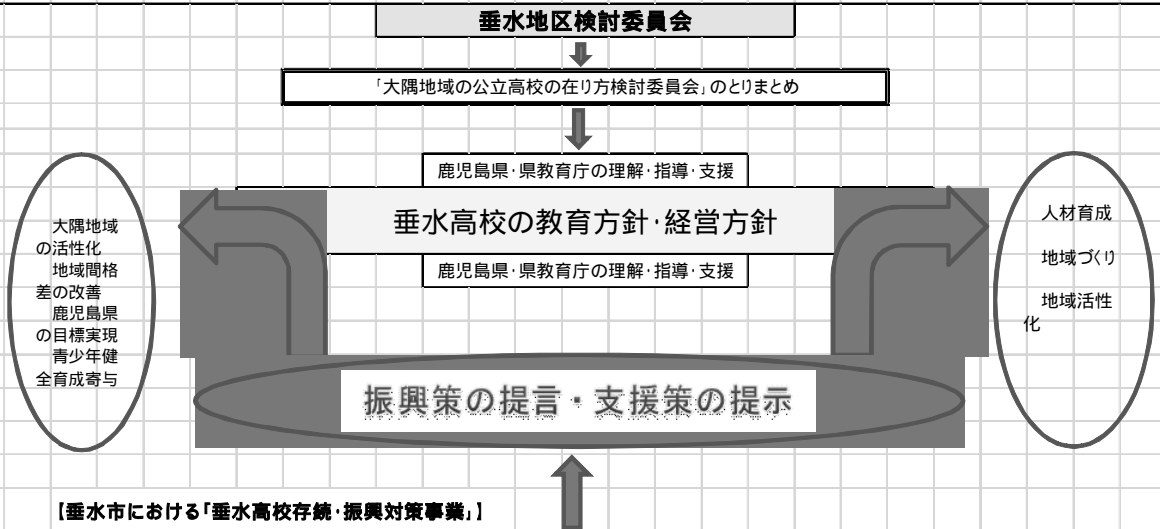
「地域に支えられる高校」について

垂水市のまとめた「垂水高校の在り方」と「魅力ある垂水高校づくり」の5つの柱の成果イメージ

垂水市のまとめた「垂水高校の在り方」についての「大隅地域検討委員会」への提言 (「魅力ある垂水高校づくり検討委員会」研究報告書として作成)

生徒減少を踏まえた高校教育の専門性の確保 教育水準の維持向上 地域振興の視点

垂水市においては、「垂水高校の存続・振興」が垂水市総合計画で掲げる基本理念・将来像の目標の実現に大いに貢献し、市民生活の向上・地域活性化に資するものである。このことから、垂水市では現在「垂水高校存続・振興対策事業」をより充実させるために取り組んでおり、垂水高校の振興に向けた垂水市全体での支援を行おうとしております。



魅力ある垂水高校づくり	
「魅力ある垂水高校づくり」の目的	垂水高校が本市になくならない教育施設として位置付けされるため、本市全体の共通認識を図っていく。 魅力ある「垂水高校」をつくるため、市及び関係団体等があらゆる取り組みを進めていく。 垂水高校振興施策の実現により、高校生の健全な育成に寄与していく。 垂水高校振興施策の実現により、垂水市の地域活性化を図っていく。
(5つの柱)	目標・施策の方向
1 学校のイメージアップ	県内でも人気のある学校づくり 活力ある学校づくり 地域貢献する学校づくり 安心して通わせらせる学校づくり 生活デザイン科の特色を生かした学校づくり
2 進学・就職の充実	就職、進学希望者の目標実現 キャリア教育の推進 地元企業対策(就職枠・雇用支援)
3 未来を担う人材づくり	将来設計ができていない生徒の育成 地元を知り、愛する生徒の育成 生徒一人一人が輝ける活動の推進
4 垂水市の地域振興	地域に信頼され期待される地域の中の学校づくり 垂水市への定住促進(子育て支援) 企業誘致及び雇用対策
5 垂水高校と関係団体の連携	県教委、大隅地域との連携促進 垂水高校振興対策協議会の活性化 関係団体等の活動支援
具体的振興策	具体的支援策
市民・行政・関係団体等の取り組み ~ 支援ネットワークの構築と持続可能な存続対策のために ~	

(7) 第2回大隅検討委説明時の垂水市のアピール 委員の皆さんに理解してもらいたいこと

A 垂水高校の存続・振興への行政・民間・高校の取り組み状況を理解してもらう

今垂水市では

行政；「垂水高校振興支援策」を作成し、振興策の垂水高校等への提示をへて、今後具体的な支援策等に取り組んでいくこと。

垂水高校；「生徒ひとりひとりに対してきめ細やかな指導を行い、夢実現をサポートする学校」を目標に今後も頑張っていこうとしていること。

民間団体（NPO・同窓会含む）等も「垂水高校の振興」について学校だけに任せることなく、民間でどう支えていくか、そしてそのために何ができるかを考え取り組んでいこうとしている。



「垂水高校が今までよりももっと魅力あるものになっていく」ということを広く心にとどめてもらえるようにする。＝（垂水高校振興支援策のテーマである「魅力ある垂水高校づくり」）

B 垂水高校が垂水市になくってはならないものであるということを理解してもらう。

生徒や保護者からのアンケートを通じた存続の願いの紹介

市民・民間団体等からの存続への思いの紹介。

垂水市の地域活性化やコミュニティの絆の向上に垂水高校の存在がなくてはならないものであることの説明。

以上のA，Bは、翻って垂水市民の「垂水高校がなくなってしまうのではないか」というたいへんな危機感が根底にあり、「垂水高校はなくなるとは本当に困る」、「であるからこそ、垂水高校を自分たちの手でさらに盛り上げていこう」という気持ちから始まったものであること。



これにより、垂水市の「垂水高校の在り方(案)」は今もこれからも「地域に貢献し、地域に支えられる高校」として規定した。



【結論】

これらを実現するためには、まずは垂水高校自体、生徒、保護者が頑張っていくのが大切なことではあるが、それを外郭から一緒に手を取り合いながらサポートしていくのが、行政・民間団体・市民の務めであり。

また、県教委には「少子化」等による様々な影響を受けとめながらも高校振興のために積極的に各高校をサポートしていくべきであるし、そのためにも大隅地域内の高校やサポートのネットワークが不可欠であると考えます。

(8)【垂水高校在り方(案)説明時；市長あいさつ(最後部分)】

垂水市長 尾 脇 雅 弥

今ご覧いただいた内容をまとめますと、
現在垂水市においては「魅力ある垂水高校づくり」に向けて今まで以上に様々な方面において活動しており、
たとえば、行政としては新たに「垂水高校振興支援策」を作成し、振興策の垂水高校等への提示をへて、今後具体的な支援策等に取り組もうとしておりますし、

また、垂水高校においても「生徒ひとりひとりに対してきめ細やかな指導を行い、夢実現をサポートする学校」を目標に今後も頑張っていこうとしています。

そして、民間団体やNPO等においても「垂水高校の振興」について学校だけに任せることなく、民間でどう支えていくか、そしてそのために何ができるかを考え取り組んでいこうとしております。

これらの取り組みは、「垂水高校が今までよりも もっと魅力あるものになっていくように」と、垂水市民が願い、手を取り合って支援の輪をひろげていこうとしているからにはほかなりません。

垂水市では、この4月からの新たな振興・支援策を策定していく過程において、
生徒や保護者からのアンケートを通じた存続への願いや、
市民・民間団体等からの存続への思いをあらためてお聞きすることができ、
垂水市の地域活性化やコミュニティの絆の向上に垂水高校の存在がなくてはならないものであることを再確認した次第です。

これはひとえに垂水市民の「垂水高校がなくなってしまうのではないか」というたいへんな危機感が根底にあり、
「垂水高校はなくなっては本当に困る」、
「であるからこそ、垂水高校を自分たちの手でさらに盛り上げていこう」という気持ちから始まったものであります。

であるからこそ、垂水市の「垂水高校の在り方(案)」は今もこれからも「地域に貢献し、地域に支えられる高校」として規定させていただいたところです。

これらを実現するためには、まずは垂水高校自体、生徒、保護者が頑張っていくのが大切なことではありますが、それを外部から一緒に手を取り合いながらサポートしていくのが、行政・民間団体・市民の務めであります。

また、県や県教委には「少子化」等による様々な影響を受けとめながらも高校振興のために積極的に各高校をサポートしていくべきであるし、そのためにも大隅地域内の高校やサポートのネットワークが不可欠であると考えています。

さて、今回の大隅地域の高校の在り方を考えますに、高校への入学者数の減少や少子化の就職口の確保、郷土への愛着感など各高校自体が抱えている問題は、すなわち大隅地域内の自治体や、ひいては鹿児島県が抱えている問題と同じであり、そうであるからこそ、行政なり、大隅地域や県全体のみんなで知恵を出し合い、教育県である歴史を踏まえた新たなネットワークを構築して10年後100年後の大隅・鹿児島県のあり方の課題解決に向けて努力して行かなければならないと考えます。

地域再生の視点の第一は、今ある宝をどう生かしていくかだといわれています。
子どもたちが私たちの背中を見つめています。

次の世代にきちんとバトンタッチできる、そして育てていける大隅であるように願い、「在り方(案)」の説明をこれで終わりたいと思います。

以上

*参考 これまでに寄せられた「振興策・支援策」の提案

広報強化	垂水高校の良いところ(少人数・先生が親身等)をもっとアピール、進学就職情報の充実、市報/H P /FMでの広報、小中学生・保護者への広報充実、進学・就職先へのアピール、市外中学校への広報強化
学力向上	学力の向上(課外授業、朝補習、個別指導、進学指導体制、進学校としてのレベルアップ)、経済的援助(奨学金、模試・資格取得、大学進学後の援助)、受験生へのアピール、スタッフの充実、特待・推薦の情報、特進コース設置
就職対策(キャリア教育)	求人情報提供の充実、資格取得の強化、経済的援助(資格取得)、就職(市内企業への斡旋・支援、市内企業募集数の増、市内・市外県外企業の情報、市役所採用)、就職専門員、若者が住みやすい環境、市内求人情報、地元産業(水産・農林等)学習
学科等	就職に結びつく学科の導入、学科の増(商業科・看護科・工業系・情報処理科・バティン科・医療福祉系)、専門的な学科の導入・充実、外国人の先生(国際高校)
通学	通学バス(含むフェリーからのバス)、市外からの通学者への交通費補助、バイク通学、フェリー通学者へ支援(定期代)
給食	学食、学校給食(栄養バランス・経費安)、売店の充実、地元食材活用の給食、生活デザイン科の活用
部活動等	新しい部活動また魅力ある部活動をつくる、部活動の強化、指導者の援助、地元の中学からの部活動がいかせる環境
学校づくり	この学校にしかない魅力、元気のある学校、施設環境整備、市の垂高支援委員会、垂水高校独自の活動への支援
生活デザイン科	バザーの活用、垂高独自の特産物、地元の素材をいかした製品開発
その他	卒業生による講演、進学就職後の経費例示、就学支援金、体験発表の場、ボランティア・学外イベントへの参加、学校行事休日開催、校風・風紀・あいさつ・生活態度の向上、入学準備費用への援助・分割支払い、地元高校の経費の安さアピール、市の施設の活用

12,魅力ある垂水高校づくり調査研究報告書について

(1) 「魅力ある垂水高校づくり検討会議」では以下の3冊の調査研究報告書を作成した。

「垂水高校の存在意義と地域振興について」調査研究報告書

垂水市民にとっての「県立垂水高等学校」の存在意義と地域振興について

- (1) 垂水市民にとっての「県立垂水高等学校」への思いと存続の願い
- (2) 「県立垂水高等学校」の変遷と垂水市の「過疎化」及び「少子高齢化」との関連について
- (3) 進学選択地に係る垂水市としての地理的特殊事情
- (4) 垂水市及び垂水市教育委員会のこれまでの「教育」振興への取り組み
- (5) 垂水市における「県立垂水高等学校」振興及び青少年育成への取り組み
- (6) 「県立垂水高等学校」存続と地域活性化について
- (7) 「県立垂水高等学校」存続と大隅地域の発展について
- (8) まとめ 「大隅地域に、そして垂水市にある垂水高等学校」の存在意義及び振興・支援策について

「垂水市の生徒（平成22年3月卒業生）の進路状況調査により分析した特徴と垂水高等学校の振興策について」調査研究報告書

テーマ1 垂水市の生徒は普通科・家庭科に入学することを避けているのか？

テーマ2 垂水市の生徒は普通科・家庭科に入学する生徒が少ないのか？

テーマ3 垂水市の生徒は私立の高校へ進学する生徒が多いのか？

テーマ4 垂水市の生徒は市外の学校へ行く割合が多いのはなぜか？

テーマ5 垂水市の生徒の高校進学の特徴は何か？

テーマ6 垂水市の生徒は普通科・家庭科はどこ地域の高校に進学しているのか？

テーマ7 垂水市の普通科希望の生徒はなぜ市外の普通科に行くのか？

「今後の少子高齢化を見据えた大隅地区の公立校の入学者定数への提言」調査研究報告書

1. 大隅地区内の高校学校配置状況
2. 各高校間の距離・通学時間、通学費からの圏域の設定
3. 大隅地区内の生徒数の推移
4. 大隅地域内の高校別進学状況及び今後の予測

- 調査研究報告書 から【提言】部分抜粋 -

これまでの検証結果から、垂水高校は、大隅地域内において、どうあるべきか、次のように提言したい。

1. 大隅地域全体の均衡ある発展を目指すことを基本とし、学校配置や学科再編を検討すること。
2. 大隅地域内の距離的バランス、経済的負担の均衡から、垂水高校は垂水圏の拠点校として位置づけること。
3. 垂水高校は、垂水圏の普通科及び大隅地域内における家庭系学科（生活デザイン科）の拠点校とすること。

(資料終わり)